

研究種目：基盤研究（B）  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18320021  
研究課題名（和文） モノ学の構築  
—もののあはれから貫流する日本文明のモノ的創造力と感覚価値を検証する  
研究課題名（英文） Formation to MONOlogy

## 研究代表者

鎌田 東二 (KAMATA TOJI)

京都大学・こころの未来研究センター・教授

研究者番号：00233924

研究分野：宗教学・民俗学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：モノ学、感覚価値、身体論、聖地、知覚、認知科学、もののあはれ

## 1. 研究計画の概要

(1) 日本文明を作り上げてきた創造力の基底をなすと考えられる「モノ」認識と、その「モノ」認識に基づく価値観と表現のありようを、宗教学・美学・芸術学・比較文化論・比較文明論・脳科学の観点と研究成果を取り入れながら、原理的かつ事例的に研究し、創造力研究とその表現・制作に寄与する。

(2) 日本人が「モノ」をどのように捉え、「モノ」と心と体と命及び自然との関係をどう見てきたかを検証すると同時に、などの快美を表わす感覚価値形成のメカニズムを分析する。

(3) 「モノ」が単なる「物」ではなく、ある霊性を帯びた「いのち」を持った存在であるという「モノ」の見方の中に、「モノ」と人間、自然と人間、道具や文明と人間との新しい関係の構築可能性があると考え、そのあり方を探る。

(4) 21世紀文明創造に向けて、新しい人間認識と身体論と感覚論の深化と再編集をはかる。

(5) 人間の幸福と平和と結びつく「モノ」認識と「感覚価値」のありようを探りながら、認識における「世直し」と「心直し」を探る。

(6) 「モノ」と「感覚価値」を新しい表現に結びつけ、大胆な表現に取り組む。

## 2. 研究の進捗状況

(1) ① 「モノ」認識の原理的研究—「もののあはれ」「もののけ」から「ものづくり」まで、②モノと心の統合点としての身体性の研究、③「感覚価値」形成の研究、④モノ認識の比較文化史的・比較文明史研究、⑤感覚

拡張の研究、⑥「気配」の研究を進め、文献・思想研究、フィールド研究、臨床研究、表現研究などの研究方法を駆使し、研究成果を研究会形式で発表・討議し、それを論文化している。

(2) それらの研究成果は、3年間にわたり、年間5回程度、また年間3～5回のフィールドワーク、研究合宿を実施し、その研究内容は毎年3月に発行する「モノ学・感覚価値研究」に発表し（これまでA4サイズ100ページ以上研究雑誌に40本近い論文として発表）の、それをホームページ上でも公開している。また、公開シンポジウムを開催し、その単行本化も進めている（2009年10月頃に創元社より出版予定）。

(3) 2009年1月、本研究会の中からさらに芸術を中心研究分野とした「アート分科会」が組織され、50名ほどのアーティスト・研究者・ギャラリストなどを巻き込んだ研究会が開催され、活況を呈している。

(4) 2010年1月に開催予定の3つの国際シンポジウム（芸術研究部会、宗教研究部会、認知研究部会の3分野の国際シンポジウム）のための研究会を進めている。

## 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

1) 2に記したように、報告書を兼ねたA4サイズ100ページ越す研究雑誌「モノ学・感覚価値研究」を毎年3月に発行し、研究会で発表した研究内容を論文として40本以上掲載し、刊行するとともに、それをホームページ上でPDF形式により全ページ公開している。

- 2) 研究会の下部組織として、「アート分科会」を作り、研究者とアーティストによる研究会を行い、それを元に展覧会を開催する（京都大学総合博物館において、2010年1月16日より1月31日まで実施予定）など。
- 3) 科研：モノ学の構築研究から発展して、平安京生態智研究会、ワザ学研究会が発足し、連携しながら研究活動を活発に進めている。

#### 4. 今後の研究の推進方策

- (1) 2010年1月に3つの国際シンポジウムを京都大学で開催する。
- (2) 同時期に、京都大学総合博物館において、モノ学・感覚価値展覧会を実施し、同時にさまざまなセミナー、ワークショップ、フィールドワークを実施し、それらの一部を公刊していく。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [雑誌論文] (計5件)

- ① 鎌田東二 「トランスする身体の探究——宗教における行と身体」『宗教研究第355号』日本宗教学会、2008年3月、査読有、21-43ページ。
- ② 鎌田東二 「柳宗悦と宮沢賢治と出口王仁三郎における宗教と芸術」『京都造形芸術大学紀要第12号』京都造形芸術大学、2008年10月査読有、128-138ページ。
- ③ 原田憲一 「1億年後の世界から見た人間の生命史的意義——美の化石美術館構想」『山形応用地質第28号』、査読有、2008年、45-51ページ。
- ④ 尾関幸 「ロマン主義美術——循環と再生への期待の形」『モノ学・感覚価値研究第3号』89-96ページ、査読無、京都大学こころの未来研究センター発行、2009年3月
- ⑤ 島藺進 「日本のスピリチュアリティの伝統と死の自覚——無常観・浮世観を手がかりに」『トランスパーソナル心理学／精神医学第8巻第1号』、査読有、2008年6月、32-36ページ。

##### [学会発表] (計2件)

- ① 鎌田東二 「歩育と歩行」人体科学会、2008年11月23日、立正大学。
- ② 鎌田東二 「宗教における行と身体」日本宗教学会、2007年9月15日、関西大学。

##### [図書] (計3件)

- ① 鎌田東二 『聖地感覚』角川学芸出版、2008年9月、296ページ。
- ② 細野晴臣・鎌田東二 『神楽感覚』作品社、2008年10月、7-15ページ、19-184ページ、205-245ページ。
- ③ 河合俊雄・鎌田東二 『京都「癒しの道」案内』朝日新聞出版、2008年11月、81-135ページ、167-209ページ。

##### [その他]

ホームページ

モノ学・感覚価値研究会

<http://homepage2.nifty.com/mono-gaku/>